

優秀賞

「親切」は誰にでもできる

愛知県 西中学校 三年

牧 信吾

去年の十月、祖母が脳内動脈瘤^{のうないどうみやくりゅう}のカテーテル治療で入院しました。コロナの影響でお見舞いには行けませんでした。退院後に、入院中のできごとをあれこれと話してくれました。その中で、祖母がとてうれしそうに教えてくれたことがあります。72才の祖母に、6才の女の子の友達ができたという話です。

「退院のときにね、同じ部屋に入院していた六才の女の子から手紙をもらったのよ。」
と、一枚の手紙を見せてくれました。

祖母は入院中、4人部屋で、同じ部屋に、1年以上長期で入院している6才の女の子がいたそうです。コロナで病院の出入りが難しく、母親は24時間付き添っていましたが、女の子は治療の副作用で嘔吐^{おうと}を繰り返し、家に帰りたと言って泣いていたそうです。それを担当のお医者さんと看護師さんがチームプレーで支えているのを目の当たりにしたら、自分の痛みを口に出すなんて大人気ない^{おとなげ}ことはできなかった、と話してくれました。

小さな子どもが病気になるのは本当に辛く悲しいことだと、祖母も切なくなりました。少々出来が悪くても、3人の息子（そのうちの一人が僕の父）が健康で大人になってくれたことを、感謝せずにはいられない心境になったと言っていました。

祖母のカテーテル治療は、数日の入院で終わり、退院の日を迎えました。そのときに、女の子から「たいいんおめでとう」と覚えてたの平仮名で書いた手紙をもらったそうです。「家に帰りた」と言って泣いていた女の子が、自分はまだ家に帰れないのに、家に帰れることになった祖母の退院を祝って、笑顔で送り出してくれました。

6才といえば、まだ幼く、人をうらやましがったり、自己主張の多い年齢です。それでも、6才の女の子の思いやりが、72才の祖母の心を元気に、幸せにしてくれました。

今まで僕は、子どもは大人から与えてもらうことしかできない、と思っていました。でも祖母にこの話を聞いて、親切にすることは、年齢、性別関係なく、誰にでもできるということを知りました。もちろん、お金も地位もありません。小さな親切でも、相手にとっては大きな勇気や幸せにつながることであります。

だから、親切な気持ちがあれば、恥ずかしがらず、その思いを行動にうつしていくことが大事だなと思いました。あちこちでなにげなくした小さな親切が集まると、もしかしたら、戦争を終わらせるほどの大きな力になるかもしれません。

その女の子は、最近、退院できたそうです。特別仕様の車いすを準備して退院したけれど、車いすを一度も使用しなくてもいいほど元気に走り回っていると聞きました。

親切な優しい気持ちを持った女の子が、無事に退院し、元気に学校に行けていると聞いて、祖母も僕も、本当によかったと思いました。